



crafts & bikes
kinopio

日時 2月3日(木)
場所 市民センター クリエイティブ カフェ
講師 安田マサテル
定員 先着20名様

profile

- 1973 大阪に生まれる。
- 1991 自転車で日本各地をまわる
- 1994 美術文化関西展入選新人賞
美術文化全国展入選佳作賞
- 1997 大阪芸術大学工芸学科金属工芸専攻科修了
- 1998 大学に勤務する傍ら自転車制作開始
- 1999 自転車試作1号機「キノピオ」完成
鹿児島県隼人町「木と生活文化展」入選
- 2000 朝日現代クラフト展入選
- 2002 木製自転車キノピオで旅に出る
イタリアからアルプス山脈を木製自転車にて縦断に成功
木製自転車2号機完成
- 2003 グループ展開催 ミラノ・イタリア
イタリア・バイクブランドとのコラボレーション開始
アメリカ・ラスベガス、イタリア・ミラノ、
東京サイクルショーへ出品
- 2004 ナショナル自転車工業(株)から当デザイン自転車発売
サンパトリニャーノでデザイナーとして稼働
- 2005 イタリア・ヴェローナZULLO工房へ移籍
木製自転車製品版デザインを開始
ZULLO工房におけるデザイナー兼メインペインター
- 2010 日本へ帰国

私は、ゆっくり走るのが好き。

どこへいくと決めないで家を出る。いつも通勤に使う電車から見ている景色の中を自転車は音を立てず転がってゆく。細いタイヤはアスファルトの振動をほどよく伝え、むかし買ってもらった自転車とはえらく感覚が違う。もうあれから何年も自転車に乗っていない事に気が付いた。

スピードを出して走る必要はない、最初のペダルの一蹴りから上質の走りであることは感じ取った。ひと一人を移動させる為だけに研ぎ澄まされた機能、ミニマリズムの極み、たった重さ10キロの道具がその何倍もある人間を運ぶ。また人にそれを使わせる美しさをもつ。見覚えのある喫茶店に出会った。よく見るといつもと変わらない服装でいつもの街の一角にいたのはカバンじゃなく自転車だった。出かける椅子、という発想、普段着でどうぞ。

海外に在留して一番よくわかったことは”日本の豊かな文化”とその価値ですイタリアでは地方が大変元気でそれぞれに名産、名物がございます。彼らは郷土を愛しそこで生きています、戦後の高度成長期に日本が失ったものそれこそが本来大切に守られるべき財産であり文化だと思えるようになりました

